どの「いのち」も　二番三番なしの　一番ばかり

あるご門徒さんに、身体に障害をお持ちのお子さんがいるご家庭があります。そのお子さんは現在高校教師をしておられます。ご両親曰く「私達はいつまでも生きてはいない。私達がいなくなってもこの子が一人で生きていけるように、社会の一員として生きていけるように」という信念のもと、自立を目指す子育てをしていかれました。小学校に通いだすと近くの友達が家に迎えに来てくれて、お子さんの車いすを押しながら登校してくれました。中学生の時には登山授業があり、「息子に山の頂（いただき）からの絶景を見てほしい」と、息子を背中に担ぎ、級友の助けと共に登山をしました。高校生になると仕事を休んで修学旅行に同行し、温泉では息子さんを抱っこをして大浴場に入りました。旅行の最中、級友たちがフォローしてくれたのは言うまでもありません。こうして周りの支援を受け続け、成長を重ねた息子さんは大学に入り、念願の教師になることが出来たのです。彼は好き好んで障害を持つ身に生まれてきた訳ではありませんし、もちろん前世の報いでもありません。生まれたら結果として障害を持っていたのです。しかし、本人もご家族をその現実を受け入れて、みんなで人生を懸命に生きたのです。なんと尊く素晴らしい事でしょう。

仏説阿弥陀経に「**池中蓮華　大如車輪　青色青光　黄色黄光　白色白光**」というくだりがあります。阿弥陀如来のおわしますお浄土には池があり、車輪の如く大きな蓮華の花が咲いている。その蓮華達、青色の花は青い光を放ち、黄色い花は黄色の光を放ち、白色の花は白い光を放っている、という事です。どの色が一番綺麗という事ではなく、それぞれがそれぞれに美しくみんな輝いているという世界です。

「私と小鳥と鈴と」

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

障害が無くてもあっても、色が白くても黒くても、男であっても女でも、背が高くても低くてもＬＧＢＴＱであってもなくても、どのいのちも「二番三番なしの一番ばかり」のいのちです。お釈迦様はそういういのちを「天上天下唯我独尊」と言われました。この世界中で（天上天下）、たった一つのかけがえのない尊いいのち（唯我独尊）という事です。さぁ、たった一度きりの人生。そんな心をいただき、かけがえのないいのちを生きてまいりましょう。